

CA SYSVIEW をお勧めする 10 の理由



1: 豊富な情報

CA SYSVIEW があれば、z/OS、JES2、USS、CICS、IMS、WebSphere MQ、TCP/IP、CA-Datacom/DB システムおよびサブシステムのリソースについて、豊富なクロスシステム・パフォーマンス情報に容易にアクセスすることができます。また、この膨大なデータは、ユーザが定義したシンプルかつカスタマイズ可能な形式で表示することが可能です。

お客様は、OS、クリティカルなシステム、データベース全体について包括的なパフォーマンス情報を提供する 1 つの製品にアクセスするだけで、業務支援に最適なフォーマットでパフォーマンスを表示することができます。

2: 一元化されたアラート

System Condition Monitor (SCM) が提供するクリティカルなリソースのローカルビューまたはグローバルビューにより、パフォーマンスの問題を素早くドリルダウンして、詳細な分析および解決を図ることができます。

他社からも多数の似たようなアラート一元管理ツールが販売されていますが、SCM はオープンなアーキテクチャを実現しつつ、内製アプリケーションやその他の重要なリソースの状況を監視/管理することができます。

```

SYSVIEW XE21 ----- System Condition Monitor -----
Command =====>                                     Scroll *====> PAGE
----- Lvl 2 Row 1-15/20 Col 1-79/132
Jobname STEAR01  ASID 00A3  Jobid TSU07768
System *          Type *          Mode LOCAL  ISERVE SSID ISRV
-----
Cmd Name      Description          Normal Warning Problem Status
WLM           Workload Manager    4         5        5    PROBLEM
FILESYS       USS File systems    1         4        4    PROBLEM
JOBS          Job resource alerts 4         4        4    PROBLEM
ALERTS        CICS alerts         7         2        2    PROBLEM
JES2OUT       JES2 output         3         2        2    PROBLEM
CICSADG3      CICS - CICSADG3     19        2        1    PROBLEM
CICSIMS1      CICS - CICSIMS1     19        2        1    PROBLEM
DASD          DASD devices        1         1        1    PROBLEM
s_ OPERATOR      Operations overview  5         5        5    ACTION
CICSADG1      CICS - CICSADG1     19        3        3    WARNING
JES2          JES2 alerts and required nodes 2         2        2    WARNING
PAGING        Paging alerts and datasets 2         1        1    WARNING
PRINTERS      Printer devices     1         1        1    NORMAL
TAPE          Tape and cartridge devices 1         1        1    NORMAL
STORAGE       Common storage usage 1         1        1    NORMAL
  
```

3: リソース消費が少ない

CA SYSVIEW は、リソース消費を少なく抑えながら幅広いパフォーマンス情報を提供できるように設計されています。

本製品をご使用の場合、**CPU** オーバーヘッドは通常 **3%~4%**程度であり、システム管理オペレータも小人数ですみます。これに対し、他社製品の **CPU** オーバーヘッドは、通常 **12%~20%**を少し超える範囲です。

より効率的なソリューションを提供することで、お客様には、重要性の高いワークロードをより効率的に処理し、メインフレームのアップグレードを回避していただくことができます。

4: インストールやメンテナンスが簡単

CA SYSVIEW のコンポーネントは、すべて同時にインストールとメンテナンスを行なうことができるため、他社製品に比べてシステム・プログラムの負担が大幅に軽減されます。

追加設定がなければ、製品は数時間でインストールすることができます。

共通サービスの機能により、クロスシステムの監視、**LMP** キーの管理、**REXX** ベースの自動化へのアクセスが可能になります。

5: 迅速な生産性の確保

CA SYSVIEW は簡単に使えるばかりでなく、パワフルな機能を提供します。

コマンドには直観的な名前が付けられ、メニューの探索も非常に簡単で、ユーザは簡単な操作でナビゲーションを活用することができます。また、オプションやコンポーネントはすべて同じインフラストラクチャおよび機能コマンドを使用しているため、その間をシームレスに移動することが可能です。さらに、サンプルまたはカスタマイズされたユーザアクセス権を役職または個人ごとに設定できるため、セキュリティが簡略化されます。

CA SYSVIEW は簡単に使用できますので、ごく短時間に検収を終えて、必要な生産性を達成することができます。

6: 高可用性管理機能のインターフェース

CA SYSVIEW の REXX アプリケーション・プログラム・インターフェース(API) により、CA OPS/MVS® Event Management and Automation をはじめとする REXX ベースの自動化ツールはすべて、パフォーマンス情報を自動化のイニシエータとして活用することができます。また、これらのツールには、総合的な自動応答の一環として CA SYSVIEW 管理機能を含めることができます。

7: 有益なツールキットとユーティリティ

構文的に複雑な OS コマンドを入力する代わりに画面を上書きすることによってユーザの生産性を高めながら、CA SYSVIEW ライン・コマンドを用いてシステム・コマンドおよびユーティリティを簡単に発行することができます。

CA SYSVIEW は、システム・パラメータを動的に修正してユーザの生産性を改善することができます。システム・プログラマおよびオペレータが最適なパフォーマンスを維持できるように追加された最新ツールは、TCP/IP 情報および管理機能にアクセスします。

主に OS およびそのサブシステムを担当しているユーザは、他の様々なツールを呼び出したり、ネットワーク管理者に頼んで自分の管理分野に影響を与えた機能を実行してもらわなければならないことが多々あります。CA SYSVIEW があれば、1つの製品でワークロードを維持するためのアクションを取ることができます。

ます。

8: 過去のパフォーマンス問題のトラブル調査

CA SYSVIEW® Event Capture Option を使用して、過去に発生したパフォーマンスの問題の原因を見極めることができます。このオプション製品を使用すると、イベントが発生した時点での情報が保存され、後で一定の間隔で検討および分析をすることができます。

ASG の TMON、BMC の Mainview、IBM の Omegamon には、イベント発生時にパフォーマンス情報を保存する機能はなく、一定の間隔で収集される情報には過去に発生したパフォーマンスの問題の原因を調査するために必要な情報が含まれていないことがあります。

9: クロスシステムへのアクセス性

CA SYSVIEW では、1つのセッションから複数の z/OS イメージを閲覧、監視、管理することができます。

クロスシステムおよびマルチシステムのリソース情報を容易に選択することができ、グローバルモードの **SCM** からドリルダウンしてその情報にアクセスすることができます。

ユーザはローカルおよびリモートのシステムにアクセスできるようになるため、情報を見ただけで、最適なパフォーマンス・レベルを維持するために最善の決定を行なうことができます。

10: ソリューションへの統合

CA SYSVIEW は CA Insight™ DB2 for z/OS と統合されており、ユーザは、DB2 のパフォーマンスの問題について一元化されたアラートにアクセスすることができます。さらに、CA SYSVIEW があれば、SCM の表示または CICS のタスクから直接 CA Insight for DB2 にドリルダウンして問題のソースを分析し、問題解決を図ることができます。

CA SYSVIEW には CA MIM™ Resource Sharing 情報が含まれており、パフォーマンス管理の観点からリソースを管理できます。

* 製品の詳細情報については、弊社 Web ページ (www.ca.com/jp) をご覧頂くか、CA ジャパン・ダイレクト (0120-702-600) までお問い合わせください。

Copyright ©2011 CA. All rights reserved. All trademarks, trade names, service marks and logos referenced herein belong to their respective companies. This document is for your informational purposes only. CA assumes no responsibility for the accuracy or completeness of the information. To the extent permitted by applicable law, CA provides this document "as is" without warranty of any kind, including, without limitation, any implied warranties of merchantability, fitness for a particular purpose, or noninfringement. In no event will CA be liable for any loss or damage, direct or indirect, from the use of this document, including, without limitation, lost profits, business interruption, goodwill, or lost data, even if CA is expressly advised in advance of the possibility of such damages.